



喜多埜

茶屋町・鶴野町の菜の花

茶屋町・鶴野町は「菜の花や 月は東に 日は西に」と与謝蕪村が詠ったように、かつて菜の花畑が広がり、その菜の花を見物する為に、様々な人々が集まり、笑顔を分かち合った憩いの地でした。

近年、この「菜の花」を一つのキーワードとして、若手の商店主、住民、企業が中心となって、鶴野茶屋俱樂部という有志の会を立ち上げ、まちづくりの機運が高まっており、二年前からこの鶴野茶屋俱樂部を中心に、菜の花を街に飾り、様々なイベントを企画し、その中で、まちに携わる人々の縁を繋いで来られました。

今まで菜の花のイベントの際は切り花の菜の花を利用してきましたが、今年は旧梅田東小学校の跡地を利用して、地植えの菜の花を育て、実に約百数十年ぶりに茶屋町・鶴野町に菜の花畑の風景が甦りました。

今月下旬(二十日前後)頃から、茶屋町・鶴野町産の菜の花が街を彩り、二十六日(土)、二十七日(日)には、下記の落語会をはじめ、街角では様々なイベントが企画されています。

ぜひ三月は茶屋町・鶴野町にお出で下さい。

当宮社史を寄贈

当宮の御本社社殿復興三十周年を記念して編纂した当宮社史を、先月、大阪市立北図書館さまよりのお申し出により四部寄贈させていただきました。北図書館では北区の地域史の蒐集を進めておられ、他にも寄贈を受けておられます。地域史などを書籍としてお持ちの方は、ぜひご連絡下さい。

北図書館

〇六一六三七五―〇四一〇

御綱の御宮

当宮の由来は天神さまこと菅原道真公が紅梅を見られる為に、綱を敷いて座られた事由来しますが、その時、お座りになられた綱は今も大切にお祀りされております。その御綱を納めてあります御笥箱は、今から一六五年前の弘化三年のこの三月に、肥前藩(佐賀県)の廣東右衛門氏によって奉納されました。当時の肥前藩は、日本初の製鉄所を造るなど、近代化をいち早く進めた藩で、当時の大阪も適々齋塾(適塾)をはじめ、そついつた西洋の知識を旺盛に摂取した地域であり、「和魂漢才」という道真公の「大和魂をもって大陸文化を学ぶ」という精神に因んで、「和魂洋才」の気鋭に満ちた土地柄であった事から、近代化を進めた肥前藩の藩士にとって、天神さまに対する崇敬の念は深いものがあつた事が分かります。一六五年前の三月、大阪には温故知新の気鋭が満ちていました。

桂佐ん吉さん落語会

今月の三月二十七日(日)の午後三時頃から、茶屋町の御旅社で人間国宝、桂米朝さんのお弟子さんの桂佐ん吉さんの落語会が茶屋町の御旅社であります。

- ・一回目 午後三時から
- ・二回目 午後三時四十分から
- ・三回目 午後四時二十分から

一回だけ(五百円)でも、三回通し(一千二百円)でも聞くことが出来ます。尚、お席は自由席(五十席)で満席になり次第、切とさせていただきます。時間がいつもとは違います。ご注意ください。

詳細は米朝事務所までお問い合わせ下さい。
米朝事務所 〇六一六三六五―八二八一

神社携帯サイトのQRコード

ドコモ、ソフトバンク、
au、モバイルPC 対応



編著 網敷天神社 禰宜(神主)

白江 秀知

